あおい通信 第124号

第124号 平成27年9月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の世界遺産めぐり
その十六 小笠原諸島（自然遺産）

どこまでも青い海と青い空

小笠原諸島の概要

小笠原諸島は、父島、母島など30余りの島々で構成される小笠原群島、硫黄島などが所属する火山列島、そしてそれらに所属しない島々から構成されている。

小笠原群島は北から聟島（むこ）列島、父島列島、母島列島に分けられている。

聟島列島―聟島、嫁島、媒（なこうど）島、北ノ島他

父島列島―父島、兄島、弟島他

母島列島―母島、姉島、妹島他

火山列島（硫黄列島）は、北硫黄島、硫黄島、南硫黄島、西之島、南鳥島、沖ノ鳥島。

総面積は約105平方キロメートルで、伊豆大島よりやや大きい程度である。これは例えば小笠原諸島と同じく貴重な生態系を持つと評価される沖縄諸島の約20分の1の大きさに過ぎない。

特徴としては、他の陸地から大きく離れていることが挙げられる。例えば伊豆半島、マリアナ諸島北端のパハロス島から父島まではともに約800キロ離れており、伊豆諸島の八丈島からも600キロ以上離れている。ほぼ同緯度の沖縄本島は西に約1300キロ離れており、東側に至っては北西ハワイ諸島まで島らしい島は見られない。この地理的隔絶が大きいことは、生物が小笠原諸島に到達することに大きな制約となった。そして島の大きさが小さいことは島内で生存することができる生物に大きな制限が加わることとなり、小笠原諸島の大きさと位置は独自の生物相の形成に大きく寄与することになった。

また地質学的には、小笠原諸島を構成する小笠原群島、火山列島、その他の島々は出来た経緯に違いがあり、海洋性島弧の形成と進化の経緯、そして大陸地殻の生成を観察することができる貴重な場所であり、いずれの島々もガラパゴス諸島、ハワイ諸島などと同じく、これまで大陸と一度も地続きになったことがない大洋島であり、大洋によって隔絶された環境の中で特異な生態系を育んできた。

地質学的、生物学的に貴重な小笠原諸島は、硫黄島、南硫黄島、南鳥島、沖ノ鳥島以外は小笠原国立公園に指定されていて、南硫黄島に関しては島全体が原生自然環境保全地域の指定を受け、小笠原国立公園と南硫黄島原生自然環境保全地域は、世界遺産の自然遺産に登録されている。

世評・時評

過酷な帰省

意味の良く解らない俳句を読んだ。〈コスモスと電話をかける女かな〉作者はその昔のコメディアン古川ロッパだという。「モシモシ」がお国訛で「モスモス」となり、その場にいたロッパには「コスモス」と聞こえたらしい。上京して月日を重ね、普段の会話はすっかり東京風になっても、同郷の昔馴染みと語らえば、たちまちにして甦る。お国訛とはそうゆうものだろう。この女性も郷里にいる誰かと話していたのかも知れない。

先祖の霊を供養するお盆のUターンに伴う道路渋滞は、八月十四日頃あたりがピークであったという。諸物価高値のなか、多量のガソリンを消費し、故郷への沢山の土産を持参しての渋滞に、例年にましてイライラが募ったであろう帰省の旅。何はともあれ無事故郷に到着され、束の間の日々を都会の喧騒から逃れ、心身を癒し、リフレッシュ後は、再び長時間の渋滞を忍び、無事帰京された事には、本当にお疲れさまでしたと、心より労いの言葉を送りたい。

そして、今年の猛暑。東京では観測史上初の「35度超え猛暑日」連続新記録であった。猛暑終息の影さえ見えないまま、肉親や幼なじみとはお国訛で交わした会話の記憶も一服の清涼剤にして、お盆明けの仕事に向かわんことを…。

ロッパさんの一句を読みながら、ふとある歌を思い浮かべる。〈コスモスの野原よぎりてバス停に亡き人の来る時刻待ちをり〉故郷で墓参りをして〝待つ〟一時を過ごした人も沢山いただろう。

ヨッチャン

雑記帳
中央自動車道とユーミン

本州のど真中を貫くように走る中央自動車道は、東京杉並区高井戸ICから山梨県富士吉田市までの「富士吉田線」と、その途中の大月JCTから愛知県小牧市までの「西宮線」の計368・8キロ。法律上は更に、小牧市から兵庫西宮市までの名神高速道路なども含まれる。1962年に着工し、江戸時代の五街道である甲州街道と中山道に概ね沿ったルートになっている。67年12月15日、まず調布ICから八王子ICまでが先行開通した。起点の高井戸ICから調布ICの開通は76年5月。82年に最後の未通区間だった勝沼ICから甲府昭和ICまでが使用開始された。

最初の開通時の道路名は「中央高速道路」だったが、暫定2車線の対面交通だったことなどから事故が多発。速度を控える狙いから、名前を「中央自動車道」に変えた経緯がある。これがあの平凡な風景を別世界に変えた中央自動道を歌ったユーミンの「中央フリーウエイ」で当時は未だ荒井由美だった。その頃は東京八王子市の実家住まいで、レーコーディングの後など、プロデューサーでやがて夫となる松任谷正隆氏にしょっちゅう送って貰っていた。「プロポーズもクルマの中だった」。歌の完成度に満足したことで結婚を決め、引退も考えたという。

K・ドラゴン

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

葵友の会 広報コーナー

8月度行事の結果

麻雀大会
19日（水）ベイブにて。西尾孝子さんの初優勝でした。2大会連続で女性の優勝となりました。

9月度行事の予定

カラオケ会
18日（金）バンバンにて。

山中湖・忍野村一日バス旅行
30日（水）昼食はホテルマウントフジでの洋食です。

カラオケ会
21日（金）バンバンにて。10名の参加。

（事務局長）

利用者さんの絆コーナー

松原　謙次（火）

私は本年四月よりお世話になっております。口下手なためまだお話ができない方が多いと思います。だんだんお話ができるようになると思います。

伊藤　千代（金）

裏千家茶道教授。海外旅行が趣味で、今まで四十カ国位行きました。好きな場所はベニス。英語が好きで今でも英会話に通っております。もう一度海外に行きたいです。

仁藤　貴美子（水、土）

草月流、洋裁をセットで教えていました。趣味は社交ダンス。昔、洋裁学校の関係でファッションモデルをしていました。若尾文子さんの映画にでたことがあります。

なんでも落語講座【落語と前座噺】

絹田治夫

また上方落語では「入れ込み」といって、寄席の開場後に客が入ってくる間のつなぎとして賑やかな噺をすることがあり、これはたいてい開口一番の前座によって演じられる。こうした噺を入込噺とも言い、『東の旅』シリーズの中の「発端」（はつたん）【喜六と清八のふたりが、伊勢詣りに出発する上方の旅噺『東の旅』の序盤部分。小拍子とハリ扇（扇子を摸した革製の道具）を両手に持ち、「ツポポポン」と見台の上をリズミカルに叩きながら、旅の道中の出来事を語っていく。】などはこの入込噺の典型である。こうした噺を前座がやるのは、見台を叩きながらしゃべることで噺のリズムを体得し、さらに見台を叩く音よりも大きな声を出せるようにするためである。落語の初心者が落語の技術を学ぶための噺であるから、この入込噺も前座噺と考えてよいだろう。

今編は一旦終わりとしますが、関連する続編が有ります。

ふわふわ亭わび助

七十年前の青春（最終篇）

島田暎一

岩国基地では同期生の、練習機による特攻訓練が開始され、私の分隊は霞ケ浦に移る事になり、訓練の再開を待っていました。私は兵舎から毎晩東京上空が真っ赤で、まるで夕焼けの様に、B29の空襲で焼かれているのを口惜しい思いで見ていました。

その後霞ケ浦の基地も危なくなり、数十人の同期生も戦死して、逃げるように今度は山形の安全な神町基地に移動することになり、夜汽車で東北に向かいました。神町基地の飛行場は周りが桃畑と、さくらんぼの木が沢山あり、何となく楽しくなりました。基地に着いて直ぐに、私達の分隊は大石田駅から軽便鉄道で尾花沢駅に向かい小休止をしていた時、ここは国語で習った芭蕉の「奥の細道」のあった所だと知り、近くのお寺で句碑を見つけましたが字が良く見えず、後で、「涼しさをわが宿にして・・・」と分かりました。

奥の細道絵巻より

私達は尾花沢からトラックで一時間位のところにあった殆ど出来て間もない滑走路でローラー引きを手伝い、小学校に宿泊し、本土決戦の待機をしていました。ここは太平洋にも日本海にも、飛んで行ける真ん中の位置でした。

小学校には風呂がなく、一時間半以上歩いて、銀山温泉に行きました。その後二週間程度して、本隊が爆撃され、残った兵舎に帰ったところ、分隊長が天皇陛下に申し訳ないと云って明朝飛行場の横の山の麓で全員死ぬから遺書を書けと命令されたのです。しかし中止になり生き残りました。芭蕉の句碑と温泉が青春のよい想い出です。

【葵通信九十九号、一〇三～一〇六号と私の昭和史投稿させて頂きありがとうございました。】

私の国際化（最終篇）

吉冨多喜男

当時は毛沢東が人民の教育レベルを高める為に漢字の普及に努め、そのため、多くの人々がアスファルトに石筆で学習していました。現在、台湾と中国の漢字が違っているのは、この辺にも由来しています。

Bahm(タイガー・バーム)。ハッカ成分の塗り薬でスッキリさせるので、香港ではよく売れていますが、これは朝分感氏が開発した化粧料です。HK事務所の中国人スタッフによれば、ニセ金を作って大金持ちになったとの事で、それも当局に発覚せぬ様、海上の船の中でニセ金を作った由です。一旦財を手にした後は、此れを止め新聞事業を興し、富を築いた由です。そしてその後は、路上に硬貨をたたきつけ、その音で偽貨幣を判別する風景はなくなりました。

さて、言語で云えば、マレイ語、広東語を習得しました。その他、習得したものに、仏、独語があります。独語は独の国家試験〝ZETAF〟があり、これで合格認定をしてくれます。

高等学校で独語を習った私は、何とかして〝ZETAF〟を受けたいと、青山一丁目のドイツ文化センターのゲーテ・インスティテュートに通いました。その結果、ドイツ、ミュンヘン近くのプリンアムキムゼーとライン河のほとりのボツパルトにと、二度語学留学しました。最終的にはミヒャエル・エンデのモモを原書で読み、此れでドイツ人の気の骨の本質が理解出来たと思います。画家ネムゾウを訪ねるのに、ミュンヘン―ベルリンを夜行列車で行った際、相部屋の未知の旅客と乗り合わせたのは大変スリルのある旅行でした。

留学中は、国際性に富んだ教室で、その国籍は、日、韓、中、イタリヤ、仏、ギリシャ、スペイン等で多彩でした。

ドイツには兵役がありますが、免除する代わりに社会奉仕する国家制度があり、彼等が留学生のお世話をしてくれます。教室で習う人種は多様。可愛さでは、イタリヤ人の女性、大人っぽいのはアメリカ人かな、との印象を受けました。個人差はあります。多国籍言語を使うのは、ユダヤ人、話術がうまいのはシリヤ、レバノン人（日産自動車のカルロ・スゴーン）かと思いました。言葉の壁はよじ登れると思います。イタリヤの諺に曰く、〝ゆっくり行く者は間違いなく行く、間違いなく行く者は遠くへ行く〟

文中一部、解説

〈涼しさを　わが宿にして　ねまるなり〉

句意：この家の涼しさをわが物にして、わが家同然の気楽な気分でねまっております。

元禄二年（一六八九）芭蕉四十六歳の作で、五月十七～二十六日、尾花沢逗留中の発句である。「ほそ道」に、尾花沢にて清風といふ者を尋ね、かれは富るものなれども志いやしからず。都にも折々通いて、さすがに旅の情をも知ったれば、日々とゞめて、長途のいたはり、様々にもてなしを得る。

あおい俳壇・歌壇

地獲りして　食をいろどる　にが瓜に
　にが虫顔出し　そっぽ向かれし

手ほどきを　学生の孫　控え目に
　久々癒さる　囲碁の楽しさ

七月作・題詠「自由」　鈴樹　清明

いたずらに　老いゆく日々の　口惜しさよ
　足元さへも　覚束なくて

花のなき　生活むなて　味気なし
　一輪摘むで　部屋に飾ろむ

河西千恵子

照りつける　日ざしの中に　涼しげに
　浜昼顔は　優しく咲けり

庭に咲く　秋海棠の　花ゆれて

相田美代子